

氏名	松本 悟 (まつもと さとる) 教授
こんな研究をしています	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発援助の制度、効果、影響 (国際組織、日本政府、NGO、新興ドナー) ・ 調査の機能 (特に環境・社会影響評価) ・ メコン河流域の地域研究 ・ 開発と環境 (自然・社会環境)
こんな成果を挙げています(過去10年以内に発表した代表的な論文や著書)	<p>【単著書】</p> <p>1. 『調査と権力』東京大学出版会、2014年。</p> <p>【共(編)著書】</p> <p>2. 『NGOから見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま』ミネルヴァ書房、2013年。</p> <p>3. 『環境アセスメント学の基礎』恒星社厚生閣、2013年。</p> <p>【単著論文】</p> <p>4. 「開発協力における調査・権力・倫理性——世界銀行の「調査の失敗」と異なる知の共犯関係——」『国際開発研究 24/2』35-50頁、2015年。</p> <p>5. 「世界銀行と地球環境基金—開発課題化される環境問題の教訓」『季刊環境研究』No. 171、2013年。</p> <p>【分担執筆】</p> <p>6. 「「水と社会」を捉えるNGOの視点——メコン河流域を事例に」林大樹・西山昭彦・大瀧友里奈編『水と社会 水リテラシーを学ぶ8つの扉』、東京大学出版会、2019年。</p> <p>7. 「キリングフィールド」「王様と私」「エア・アメリカ」「ハーツ・アンド・マインズ」「ビルマの豎琴」三上貴教編『映画で学ぶ国際関係 II』法律文化社、2013年。</p> <p>【事典】</p> <p>8. 「住民移転」国際開発学会編『国際開発事典』丸善出版、2018年。</p> <p>【その他】</p> <p>9. 「誰のためのODAか?—利他と利己の間で」『世界』2014年8月号、岩波書店。</p> <p>10. 「メコン河の越境水環境問題」『環境パートナーズ 49/ 8』76-80頁、2013年。</p>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	上記研究分野以外に、貧困、紛争、資源、森林に関する研究であれば、大学院での指導が可能です。研究方法としては、院生の研究目的に沿って、インタビューや文献を研究資料とする質的調査の指導、統計データやアンケートに基づく量的調査については助言を行います。
こんな授業を行なっています	国際協力の概念やアクター (国際機構、NGO) の役割、開発援助の社会・文化的側面、新興ドナー (中国、韓国、タイなど)、開発や開発援助が少数民族に及ぼす影響について学びます。毎回文献を指定し、受講生が分担して講読・発表し、教員が補足的な講義を行います。なお、履修する院生の関心をふまえて、授業内容や使用する文献を柔軟に変更する方針です。
学会や社会でこんな活動をしています	NHK 報道記者 (1987-92)、日本国際ボランティアセンター (JVC) ラオス事務所代表等 (1992-96、ラオス労働勲章)、特定非営利活動法人メコン・ウォッチ代表理事等 (1999-)、国際環境 NGO FoE Japan 顧問 (2009-)、アジア太平洋資料センター理事 (2010-)、外務省開発協力適正会議委員 (2011-17)、JICA 環境社会配慮助言委員会委員 (2011-2018)、ジェトロ環境社会配慮諮問委員など。2018年度はタイ・チュラロンコーン大学アジア研究所で客員研究員。